

2023

国語

注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

—
次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

青山颯太は小学六年生の転校生である。転校したばかりで友達ができない中、自転車を通じて出会った吉平(きちへい)・晴美と、三人一組でタイムを競う自転車のレースに参加することになった。

角崎(つのさき)の荒れ地が、すぐそこにせまってきていた。颯太は、転校してから今日までのことを思い出していた。吉平と晴美と三人で、いろんなことがあった。よわむしでおくびよう者なのに、ふたりは颯太をキャプテンにしてくれた。でも、ちっともキャプテンらしいことはできなかった。それでも吉平と晴美といると、ほんとうに楽しかった。もしキャプテンとしてできることがあるとすれば、ふたりに思い切り自由(ゆ)に走ってもらうことではないか。たとえ、それで勝てなかったとしても、そのほうがいい。悔(く)いは残らない。颯太はとっさにそう思っていた。かずみさんも、ちゃりんこは走りながら作戦を立て、走りながら作戦をかえていくものだと言っていたじゃないか。

「きつぺい。ぼくたちのことは気にしないで、おもいきり速く走りぬけてくれ。ジャンプしてもいいし、とにかく最速だ」
「いいのか」

「ぼくらは自分の自転車で、いちばんいい走りでここを走りぬける。マウンテンバイクはマウンテンバイクで、ランドナーはランドナーで、クロスバイクはクロスバイクで」

ちよつとかっこよすぎのことばかなと思ったが、颯太は言っですつきりした。

「作戦変更か」

「変更だ。そんなもの、トイレにポイッだ。いいよね、晴美くん」

「キャプテンの言うことなら、すべて了解だ」

「じゃあ、行くよ。ゴー！」

颯太が言うのと、最後尾さいこうびにいた吉平がまっさきに飛び出してきた。① ぎりぎりまで引いた弓が、いつきに矢を放つたみたいだった。ホッホーと奇声きせいを発しながら、吉平は角崎への悪路につっこんでいった。荒れ地の道は幅はばにすると三メートルほどだ。でこぼこや障害物をいっしゅんで判断し、飛んだりねたりしながら、悪路を走っていく。さすがは吉平だ。こんなにすごいとは思わなかった。まるでダンスだ。晴美は慎重しんちょうだった。しっかりと前方の道を見すえ、車体をこきざみに動かして、たくみに障害物をさけていく。走りは力強いままだ。颯太は一周目で、吉平が通ったラインを覚えていた。そのラインの上を、全速力で走るつもりだった。川舟かわぶねの残がいやわれたピンなども、しっかりと頭に入っている。もしも失敗してパンクしたら、それで終わりだ。しかたがないことだ。後悔こうかいはしない。そう決心したから、もうなにもこわくない。

そうして三人は、まったく好き勝手に走った。

颯太は、うれしくてしかたがなかった。仲間といっしょに走れるからなのか、自然の中で思うぞんぶん走れるからなのか、自分でもよくわからない。とにかくうれしくて、わくわくして、イヤッホーの気分だった。

うかれていて、荒れ地であることをどこかで忘れていた。十メートルほどさきの地面に、とがった石の先っぽが出ていた。まともにもふめば、タイヤがパンクするおそれがある。ジャンプするか、横にさけて通るかだ。ジャンプはどちらにせよ、タイヤに負担をかけてしまう。横にさけて通るとしたら、やぶにつっこむおそれがあった。

どうする？ 考えているひまはない。

颯太は、いっしゅんで決断した。 I わけにはいかない。

颯太は思い切り体をかたむけて、ハンドルをもつ腕うでとペダルをふむ足で白馬号ハクバゴウをはきみ、守るようにして転倒てんたうした。ずんという衝撃しやうげきが、左肩ひだりかたから腰こしにかけてあった。ヘルメットをつけていたので、頭のほうはだいじょうぶだった。

異常な音を聞いた吉平と晴美が、自転車を止めてふりむいた。

「颯太！」

「だいじょうぶか」

数秒間は息ができなかった。左肩からわき腹にかけて、しびれるような痛みがあった。腰のあたりは、ほとんど激痛であった。だが、白馬号をだきかかえるみたいにして、颯太はわらった。

「ピース！」

指でVサインを出して、颯太は立ちあがるうとした。腰が **A** 痛んだ。

うなり声をあげたとき、体が **B** 軽くなった。吉平が白馬号を起こしてくれて、晴美が颯太をかかえあげてくれたのだ。「どう？ 行けそう？」

吉平が心配そうに、颯太の顔をのぞきこんだ。

晴美が言った。

「腕をぐるぐるまわして、いちど、屈伸くつしんをしてみろ」

颯太は腕をまわし、屈伸をしてみた。痛くてうなり声をあげたが、動かないことはない。

「だいじょうぶ。行けるみたい」

「よっしゃ。勝負はここからだぜ」と、吉平がわらった。

颯太はうなずいた。

「ごめん。タイムをロスしちゃった」

「ドンマイ、ドンマイ」と晴美は言っつて、じぶんの自転車に向かって走った。

颯太も、白馬号にふたたび乗った。あと残り少しだ。これで優勝はできないかもしれないけど、がんばるだけがんばってみよう。さつきふたりにかっこいいこと言っつて、けっきょくこのさまだ。めいわくをかけてしまった。でも、ちっともおこっているふうではなかった。そのやさしさに、^② 颯太はちよつと泣きそうになった。だけど、ここでそんな気分にはひたっているわけにはいかない。吉平と晴美は、走りたがっているのだ。いや、たぶん、颯太の白馬号もだ。

颯太は、ペダルをふみこみながら言っつた。

「ここからはまた、きつぺいがトップ。つぎに晴美くん。菜の花ロードからは、ゴールまで、ぼくがトップに出る」
了解！

三台のちやりんこは、ふたたび一列になって走りだした。

颯太は、ハンドルにつけたサイクルコンピュータを見た。転倒してロスした時間は、たぶん一分か二分だ。それでも、練習で走っつたときよりいい成績だ。兵頭（注）ひょうとうさんやかすみさんが言っつていた「トライアル」というのは、^③ こういう事故アクシデントをふくんでのことなのだ。そこであきらめたり、ふてくされたりしたらおしまいだ。これまでの颯太だったら、きつと ^③ そうしていただろう。吉平と晴美のおかげで、そうはな

らなかった。

がんばろう、と思った。

左肩と腰が、まだ痛んでいる。けれども体は動く。だいじょうぶだ。

吉平と晴美は、だまってペダルをふみつづけている。颯太の息づかいや自転車の音を、異常がないか聞いてくれているのだ。心配して、

C 晴美が後ろを見たりする。颯太はさげんだ。

「もう、痛くなくなっし！」

ほんとは痛かった。でも、走れないほど痛いわけではない。

了解！ キャプテン。

ふたりの返事に、^④ 颯太はまた泣きそうになった。こんなぼくを、まだキャプテンって言ってくれろ。

吉平、晴美。スペシャルサンキューだ。スペシャル、ベリイベリイ、ラジャーだよ！

角崎の荒れ地が終わると同時に、颯太は先頭に飛び出していった。^⑤ あと残り四キロだ。いや、四キロしかない。終わりたくないなど思った。でも、ゴールはたしかにそこにある。

(横山充男^{みっお}『チャリンコボーイ
自転車少年』による)

(注1) かすみさん…颯太たちが通う自転車屋「サイクル山森」の店主。レースの練習を指導してくれた人でもある。

(注2) マウンテンバイク・(注3) ランドナー・(注4) クロスバイク…いずれも自転車の種類を指す名称。

(注5) 兵頭さん…駅前のイベントハウスの運営をしている人。

問一 空欄A～Cに入る言葉としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア じわりと イ すつと ウ ずきんと エ じつと オ ふらりと カ ちらちらと

問二 本文中の、点線枠で囲まれた部分から読み取れる彼らの様子の説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 吉平と晴美は颯太がキャプテンらしさを見せようと、かっこいい声かけをすることにあきれている。
イ 吉平と晴美はレース中の作戦変更でも、文句を言わず従うほどに颯太のことを信頼している。
ウ 吉平は颯太の指示に疑問を持ちつつも、自由に走っていいという指示を出してもらえ喜んでいいる。
エ 颯太は晴美の助言を受けたことで、自由に走っていいという指示を迷いなく伝えられ安心している。
オ 晴美は性格の異なる颯太と吉平の仲をとりもつことで、チームをまとめるのに貢献している。

問三 傍線部①「ぎりぎりまで引いた弓が、いつきに矢を放ったみたいだった」とありますが、

(i) この部分に使われている表現技法としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 対句 イ 倒置法 ウ 擬人法 エ 比喩 オ 体言止め

(ii) この部分は吉平のどのような様子を表現したのですか。自分の言葉で説明しなさい。

問四 空欄Iに入る言葉としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア タイムロスしてしまう
イ 好き勝手に走る
ウ 白馬号を傷つける
エ 仲間に衝突する
オ 頭をぶつけてしまう

問五 傍線部②「颯太はちよつと泣きそうになった」・④「颯太はまた泣きそうになった」とありますが、なぜ「泣きそうになった」のですか。その理由としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 転倒により優勝が難しくなったが、まだあきらめていない仲間に関心したから。

イ 勝利に貢献できないながらも、仲間を応援してあげたいと思ったから。

ウ 転倒が原因でタイムロスになり、勝利が遠のいてしまったことが悔しかったから。

エ ケガで足を引っぱってしまい、キャプテンの重責に耐えられる自信がなくなったから。

オ 転倒して仲間を迷惑させたにも関わらず、心配してくれた気づかいがうれしかったから。

カ 最後までキャプテンとして、信頼してくれている仲間への感謝の思いが生まれたから。

問六 傍線部③「そうしていた」とありますが、ここではどうすることを指していますか。五十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑤「あと残り四キロだ。いや、四キロしかない。終わりたくないなと思った」とありますが、このときの颯太の気持ちを六十字以内で説明しなさい。

問八 本作品の登場人物についての説明として、不適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 颯太は、ケガで仲間に関心したから、心配をかけてしまった。

イ 吉平は、条件の悪い道でも楽しく走ることのできる陽気な選手である。

ウ 晴美は、焦ることなくレースに取り組める落ち着きのある選手である。

エ 吉平と晴美は、レース中は静かに走り周りを気にしない選手である。

オ 吉平と晴美は、記録よりも仲間を優先してくれる優しい選手である。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

たとえば、いまこの部屋には空調が利きいています。今日は外が涼すずしいからこんなに利かせる必要はないと思うのですが、この空調のおかげで、我々は夏でも非常に快適に会議ができます。五十年前にこんなことが可能だったでしょうか。不可能です。三〇度以上の猛暑もうじよの中で、汗あせをたらしながら議論をしていたと思います。その中で、熱射病にかかったりしたかもしれません。そういう肉体的な苦しみやつらさがありません。

ところが、暑い中で仕事をするのはいやだ、つらい、苦しいとなるのが人間でしょう。A どうするか。そのつらさや苦しみを消すテクノロジーを発展させればいいのです。そして現実には、そのような技術を開発してきました。これが無痛化のよい例です。

みなさんも他の実例をさまざまに思いつくと思います。こういう話をすると、すぐにおわかりと思いますが、そもそも文明の進歩とは無痛化を進めることではないのか、と考えることもできます。

正確に言えば、今あるつらさや苦しみから、我々がどこまでも逃げ続けていけるような仕組みが、社会の中に張りめぐらされていくこと、これを私は「無痛化」という言葉で呼んでいます。ですから、たんに、①病気でどこかが痛いときに鎮痛剤ちんづつざいをつかうことが、私が言いたい無痛化ではないのです。そうではなくて、暑いのがいやだったら、暑いことから逃げるテクノロジーをどんどんつくる。何かこころの悩みがあるのなら、それを消す薬を開発して飲む。人間関係が苦しいのなら、そこから逃げる。親の介護かいごが苦ければ、親をどこか見えないところにやってしまう。そういうふうにして、目の前に起こってくる苦しみやつらさから、次々と逃げ続けていけるような仕組みを社会の中に張りめぐらせていくこと、これを、私は無痛化と呼んでいます。

無痛化は、いま目の前にある苦しいことやつらいことから次々に逃げるだけではなくて、もう一つの特徴とくちょうを持っています。それは、将来起きるかもしれない苦しみやつらさを予測して、あらかじめ手を打つことです。B 、苦しみやつらさが起きないように、あらかじめ次々と手を打っていくのです。そして、現代の科学技術や医療技術いりょうぎじゆつは、そのような社会の進み方をサポートする方向に、どんどん進んでいるのではないのでしょうか。私はそういう流れを無痛化と呼んでいます。そういう方向に向かって、機関車のように a 邁進まいしんしている我々の文明のことを、「無痛文明」と呼んでいます。無痛文明が最も進んでいるのは、おそらくアメリカ合衆国と日本ではないのでしょうか。

C 、苦しみからどこまでも逃げ続けていく仕組みが社会の中で発展したとして、そのどこが悪いのか、という疑問が浮かぶと思います。文明の進歩とはそういうものであったらう。それは文明の輝かがやかしい勝利なのではないか、何てすばらしいんだ、と。はたして、

そうでしょうか。

これは非常に悩ましく難しい問題です。現代哲学が正面から立ち向かって、深く掘り下げるべき問題ではないかと思えます。いま体験しているさまざまな苦しみ、将来ふりかかってくるであろうさまざまな苦しみ、そういうものから、多くの人々が次々と逃げ続けることができるような仕掛けが張りめぐらされている社会は、いい社会だと思えますか。みなさん、どうお考えでしょうか。

② この問いかけを若い人たちにすると、彼らはイエスとはなかなか答えずに、考え込みます。

(中略)

苦しみから次々に逃れていったあとに何が残るかという点、快樂と快適さと安樂さが残ります。社会の中で、人間関係の中で、人生の中で体験する苦しみからどんどん逃れていき、そうしてどうしても逃れられない苦しみがあれば、それに目隠しをして見ないことにする。すると、そういうものは全部目の前からなくなると、そのあとに何が残るかという点、快樂、快適さ、安樂さが残る。ほしい刺激は手に入れない、樂をしたいときには樂ができる。こういう状態になるのです。

もちろん今の段階の文明は、まだそこまで行っていないかもしれません。そこを目指して動きはじめたところですから、まだそこまで行っていないのですが、もしそこまで行き着いてしまったらどうなるのか。苦しみからいくらかでも逃れ続けることができ、快樂、刺激、安樂さ、快適さ、これらを十分に経験することができる。するとどうなるか。「気持ちがいいけれどもよろこびがない、刺激が多けれども満たされない」という状態になるのでしょうか。③ これが、現代文明の根本問題だと私は思うのです。

私もここまでいろいろ考えてきてわかったのですが、じつはこれは現代に特有の問題ではないのです。これは、非常に古くから哲学や宗教が、それぞれの時代に即して考えてきたことなのです。

ある人が財産を手に入れ、権力を手に入れ、好きな人を手に入れ、時間を手に入れ、快樂を手に入れ、刺激を手に入れ、さあどうなったかという点、その人の人生は X になりました、というお話を我々はたくさん持っています。どの文化でも持っています。これは何を意味しているのか。

やはり人類は昔から、こういう問題に直面してきたのです。快樂はあるけれどもよろこびがない、物はあるけれども充足しないという問題に。ところが、昔の社会では、こういう状況に陥る人は少数でした。たとえば、権力の頂点に立って人々から搾取している貴族や王族などの、ひとにぎりの人々だけだったでしょう。

すなわち、文明が進歩した結果、昔はひとにぎりの貴族とか王様だけが陥っていた状況が、 Y したと考えられるのです。無痛化する

る現代文明とは、昔はひとにぎりの人しか抱え込むことのなかった富の逆説を、社会全体で抱え込まなければならなかった文明のことな
のです。

これからの若い人たちがどういう社会を生きなければならなくなるかという点、④ 砂糖水の中に溺れていくような社会ではないかと私は
思います。砂糖水は甘くておいしい。しかしこれからの社会は、その砂糖水の海に溺れて、窒息していくような社会なのではないでしょうか。

(森岡正博『生命学をひらく——自分と向きあう「いのち」の思想——』による)

(注1) 搾取：権力者が労働者を安い賃金で働かせ、利益の大部分をひとりじめにすること。

(注2) 逆説：表現の上では矛盾しているようだが、よくよく考えると理にかなった説のこと。

問一 波線部 a・b の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a 邁進

- ア ゆったりと進んでいくこと。
- イ 一定の速度で進むこと。
- ウ 目的に向かって突き進むこと。
- エ すさまじい音を立てて進むこと。
- オ 計画どおりに進んでいくこと。

b 即して

- ア 配慮して
- イ 独立して
- ウ 合わせて
- エ 抵抗して
- オ ときどき

問二 空欄AとCに当てはまる言葉としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい（ただし同じ記号が二か所に入ることはありません）。

ア そもそも イ では ウ しかし エ ならば オ つまり

問三 傍線部①「病気でどこかが痛いときに鎮痛剤をつかうことが、私が言いたい無痛化ではない」とありますが、「病気でどこかが痛いときに鎮痛剤をつかうこと」と、筆者の言う「無痛化」とはどのような違いがあるのですか。「鎮痛剤をつかうことは」・「無痛化は」を主語にしてそれぞれ説明しなさい。

問四 傍線部②「この問いかけを若い人たちにする」とありますが、どうして「若い人たち」に限定して「問いかけ」をするのですか。その理由としてもっとも適当と考えられるものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 年老いた人たちは、もうすでに苦しさやつらさを経験してしまっていて、若い人たちだけがこれから生まれる苦しさやつらさから逃れる権利を持っているから。

イ 年老いた人たちに比べ若い人たちはチャレンジ精神をまだ持っているので、目の前の苦しさやつらさに自ら立ち向かおうとする意志を見せてくれるはずだから。

ウ 哲学的に難しい問題を意地悪で年老いた人たちに問いかけるべきではなく、若い人たちこそ難問に立ち向かうべきだと考えているから。

エ 年老いた人たちは経験的に苦しみの意味を理解しているし、若い人たちこそ自分たちが生きる社会について真剣しんけんに考えなければならぬ立場にいるから。

オ 年老いた人たちはともかくとして、若い人たちであれば「逃げる」という表現に対して強い抵抗感を感じとって歯向かってきそうな気がしたから。

問五 傍線部③「これが、現代文明の根本問題だ」とありますが、どういうことですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 人々が満たされた実感を持つことができる段階まで、まだテクノロジーの進歩がたどりつけていないということ。
- イ テクノロジーが進歩して人々の生活を豊かにしても、なかなか満たされた実感を持つことができないということ。
- ウ テクノロジーの進歩がある段階まで達すると、人々は逆に苦しさやつらさを自ら欲するようになってしまうこと。
- エ どうすれば人々が満たされた実感を持てるテクノロジーであるのか、その進歩のさせ方がわからないということ。
- オ 純粋にテクノロジーの問題に限定しているはずなのに、哲学や宗教といった思想の問題が入り込んでしまうこと。

問六 空欄Xに当てはまる二字の熟語を自ら考えて答えなさい。

問七 空欄Yに当てはまる語句を次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 大衆化 イ 絶対化 ウ 孤立化 エ 具体化 オ 縮小化

問八 傍線部④「砂糖水の中に溺れていくような社会」とありますが、これはどのような状況を述べたものですか。本文の表現を用いて六十字以内で説明しなさい。

問九 この文章の特徴を説明したものととして、もっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 哲学や宗教、さらにはテクノロジーにまで考えを広げて現代文明の根本的な誤りを様々な角度から指摘している。
- イ 自分自身が経験してきたことを例としてたくさん盛り込むことによって、実感のこもった訴えを読者に投げかけている。
- ウ 哲学的、宗教的に難しい問題の解決方法を現代の人々の感覚でもわかるようにテクノロジーを事例として紹介している。
- エ 独創的な視点から現代文明を考えることで問題を指摘し、これから進むべきテクノロジーの方向を指し示している。
- オ 読み手を強く意識して丁寧な例を挙げながら説明することで、筆者の考えに共感しやすいようにしている。

注意
一字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。

一

二

三

問八	問七			問六			問五	問四	問三		問二	問一	
エ	う	つ	も	こ	と	良	悪	②	ウ	ii	i	A	
	思	ま	、	の	あ	い	路	オ		ためていた力を使い、 勢いよく飛び出していく様子。	エ	ウ	
	い	で	自	大	き	タ	で	④				B	
	。	も	分	会	ら	イ	転	カ				イ	C
		レ	を	で	め	ム	倒						カ
		ー	支	の	て	を	し						
		ス	え	結	し	出	て						
		を	て	果	ま	す	し						
		し	く	を	う	こ	ま						
		て	れ	気	こ	と	っ						
		い	た	に	と	が	た						
		た	仲	す	。	で	時						
		い	間	る		き	点						
		と	と	よ		な	で、						
		い	い	り		い							

得点	
----	--

問九	問八				問七	問六	問五	問四	問三			問二	問一
オ	あ	足	も	快	ア	不	イ	エ	苦しさをやつらさ全般を解消するしくみのこと			A	a
	る	が	、	楽		幸			前者の内容も含め、心身双方の			エ	ウ
	こ	も	決	や					〔無痛化〕は（			B	b
	と	た	し	安					現実のからだにある痛みの解消のこと			オ	ウ
	。	ら	て	楽					鎮痛剤をつかうこと〕は（			C	
		さ	そ	さ					）。			イ	
		れ	れ	に									
		ず	に	困									
		、	よ	ま									
		苦	っ	れ									
		し	て	て									
		い	喜	い									
		状	び	な									
		況	や	が									
		で	充	ら									

受験番号	フリガナ	
	氏名	